

令和2年度 海田町立海田西中学校 研究推進計画

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

主体的に学びを深める生徒の育成
～「見通し」・「協働」・「振り返り」を効果的に設定した授業づくりを通して～

(2) 主題設定の理由

本校の生徒は、提示された課題に対して真摯に取り組むことができる。家庭学習ノートへの取組も定着し、確実にノート提出をして、力を伸ばしている生徒が多くいる。また、自らが課題を見つけ、目標や課題意識をもち、自ら進んで粘り強く学習に取り組んでいる生徒が多くおり（平成31年度全国学力・学習状況調査より、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して肯定的回答の生徒の割合は67.2%（県平均55.1%）、「基礎・基本」定着状況調査より、「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしています」と答えた生徒の割合は78.4%（県平均66.9%）、「自分で勉強の計画を立てています」と答えた生徒の割合は70.3%（県平均55.9%）、「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力しています」と答えた生徒は89.2%（県平均78.0%）であり、学習意欲をもち、自ら進んで学習できる生徒が多く見られる。これまで取り組んできた西中授業システムや家庭学習ノートなどの取組の成果である。

また、昨年度重点を置いた「協働」については、H31年度全国学力学習状況調査より、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対して肯定的回答の生徒は82%（県平均77%）、校内生徒アンケートにおいて、「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています」に対して、肯定的回答の生徒の割合は、1学年93%、2学年85%と協働の場面の思考力では成果が見られた。

一方で、平成31年度全国学力学習状況調査において、国語の正答率が84%、数学の正答率が77%、英語の正答率が62%であり、県平均の数値よりどの数値も高いものの、重点課題として国語は「話し合いの方向を捉えて自分の考えを持つ」の正答率が71.6%、数学は「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」の正答率が64.2%、英語は「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることができる」の正答率13.4%、「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる」の正答率0.0%と、自分の考えを相手に分かりやすく示したり、説明したりする表現力に課題があることがわかる。

このことを踏まえ、学校教育目標の「一步前へ！果敢に挑戦」のもと、確かな学力の定着に向け、教えるべきことはしっかり教え、生徒の思考を促す深い学びの実現に向けた授業の在り方を再構築していく。本校は昨年度に引き続き、「見通し」「協働」「振り返り」の3つの視点を意識し、3つの中で、「振り返り」に重点を置き、より効果的に学びを達成できるように、研究を進める。

(3) 研究仮説

仲間とともに意欲的に学びを深めていくペア学習やグループ学習の質を更に高め、生徒の思考が単元を通してつながりのあるものにしていくために、「見通し」「協働」「振り返り」の3つの視点を意識した授業づくりを行う。具体的には、実際に教師が生徒の立場に立ち、単元を通して付きたい力（生徒のゴールの姿）から必要な学習活動を設定する。教師の一方的な流れにならないようにすることで、生徒と教師が学びを共有し、生徒の思考に意味をもたせ、次の学びにつながっていくようにする。学びが充実するように、単元の導入部分や協働の場の在り方や方法についても研究を進める。今年度重点を置く「振り返り」では、生徒自らの言葉で十分に表現させ、学びの達成を味わわせ、次の学びや日々の活動への意欲へとつなげていく。

これまで取り組んできたHRでの学習などの取組についても、生徒の学習の基礎を培うとともに、更なる目標を持たせ、挑戦する心を育てるために、継続させる。

これらの取組を継続すれば、生徒は目標達成のために思考を働かせ続け、自ら学び、主体的で深い学びが実現することができるであろう。

(4) 研究内容

- ア 生徒の思考を軸とした単元構成の見直しと創造
- イ 生徒指導の三機能をいかした西中授業システムによる授業改善
- ウ 協働の場の在り方や設定の仕方
- エ 家庭学習や HR での学習で、基礎を定着させるとともに学習習慣を身につけさせる指導の充実
- オ ジョイスタや読書活動、NIE などを活用した、生徒の学ぶ意欲を引き出す取組の充実と工夫
- カ タブレットの効果的な活用の仕方

(5) 検証の指標

- ア 各種学力調査等の結果
(「基礎・基本」定着状況調査質問紙、全国学力・学習状況調査、標準学力調査等)
- イ 授業及び生活に関する意識調査(生徒、教師、保護者)
- ウ 授業評価(教師)
- エ 単元構想図による「課題発見・解決学習」の単元開発(一人1本)

2 校内研修計画

- ア 年に1回以上、単元構想図をもとに指導案を作成し、研究授業を実施
- イ 研究主題に基づいた理論研修の実施
- ウ 本校の授業スタイルの確立、共有化を図るための研修会の実施
- エ 年間1回の全教員による授業研究会の実施(指導主事招聘)
- オ 年間を通したグループごとによる授業相互参観及び意見交流会の実施

※アについて(計画)

4月研修(構想図について) → 5月初旬 校内研究授業 → 5月中旬単元構想図作成 → 6月指導案略案作成・検討 → 7月指導案作成 → 8月模擬授業 → 9月公開研役割分担

3 検証計画

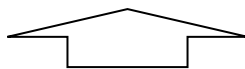
- (1) 各種学力調査の結果・誤答分析
- (2) 学校評価アンケート(前・後期)の実施(対象は生徒、保護者)
- (3) 授業に対するアンケート(前・後期)を実施(対象は教師)
- (4) 相互の授業参観による授業評価の実施

4 研究公開等の予定

公開予定日	令和2年10月21日(水)
内容	海田西中学校公開研究会

令和2年度 海田町立海田西中学校 研究構想図

学校教育目標 『 一歩前へ！果敢に挑戦 』
— 夢を志に —



目指す生徒像 気付き 考え 実行する生徒



研究主題 主体的に学びを深める生徒の育成
～「見通し」・「協働」・「振り返り」を効果的に設定した授業づくり～

